

第3回 渋谷区スポーツ推進計画策定委員会 議事要旨

【日 時】

2017年（平成29年）10月23日（月）18時30分～20時00分

【会 場】

区役所仮庁舎第2庁舎1階保健所講堂

【出席者】

- (1) 委員=13名
- (2) 事務局=3名

【会議次第】

- 1. 副委員長あいさつ
- 2. 議 題
 - (1) スポーツ推進計画素案について
 - (2) パブリックコメントの実施について
 - (3) 中学生フォーラムの実施について

【配付資料】

資料1 渋谷区スポーツ推進計画 素案

【議事概要】

1 副委員長あいさつ

副委員長 第3回渋谷区スポーツ推進計画策定委員会を始めさせて頂きたいと思います。委員長は急遽出張が入ってしまい、私が司会進行役を務めさせて頂きます。よろしくご協力の程お願い致します。前回の8月から2カ月経ちました。皆様に出して頂いたご提案を委員長と二人でまとめて提案させて頂きました。こちらについて皆様からご意見を頂き、事務局にお渡しするのが本日の会議の目的です。その後パブリックコメントを実施することになります。皆様の重要かつ多様なご意見を大事にしていきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

2 議題

(1) スポーツ推進計画素案について

副委員長 大まかなところを説明して、それから皆様のご意見を頂きたいと思っております。

「スポーツの基本的な考え方」、「施策の体系」に、「するスポーツ」「見るスポーツ」「支えるスポーツ」「つながるスポーツ」と入れてあります。基本計画に基づき、「思わず身体を動かしたくなる街へ。」に向けた施策の柱、施策の方向性が示されています。皆様のご提案を入れ込む形で素案をまとめさせて頂きました。どのような考えを

重視してつくったか、どのように実行していくかが大きなポイントになると思いますので、そこについてご説明させていただきます。

次に、計画の策定、実施にあたって重視する視点です。何度も皆様から出てきた「渋谷らしさ」、「思わず身体を動かしたくなる」に繋げていくためにどのようなことを重視すればよいのかについてです。委員長がつくった素案として6点あります。1点目は「物の豊かさから心の豊かさを大切にします」です。大きさや速さという量的なだけではなく、質も大事にしながらスポーツ環境の整備に努めるということです。

2点目は「SDGsを踏まえたステイクホルダー全体の社会計画とします」です。今、社会の価値観や経済のあり方は日本のみならず世界で動いています。SDGsはこの動きの中で2015年に国連で採択された、2030年までの持続可能な社会に向けた目標です。“Sustainable Development Goals”を略してSDGsと言われています。まだ知られていないものの、日本政府も実行すると公約しています。持続可能性がキーワードになっています。先進国も発展途上国も皆で地球や人や平和について考えて、今までのように消費するだけではなく、持続可能なことを取り組んでいこうという主旨です。持続可能性についても踏まえて渋谷区ではスポーツ推進計画をつくっていこうということです。

また3点目の「Society5.0に向けたスマート・スポーツ・シティを目指します」は、AIの発展で社会が大きく変わってきていることを踏まえた方向性です。Society5.0に関しては、第5期科学技術基本計画で提案されています。先端技術を基盤として必要なサービスが提供される社会の中で、渋谷区のスポーツをどのように考えていったらよいのかという提案です。ここでは日本のシリコンバレーと言われている渋谷の強みを活かします。

4点目は「シェアリング・エコノミーを活用します」です。これも持続可能な社会を考える中で発展してきた概念です。渋谷区でも、区民が限られた資源を共有しながらスポーツ振興を進めていくという視点を重視していきたいと考えています。

5点目は「渋谷区内の民間企業・民間団体の活動を促進します」です。渋谷区には多くの民間事業所が立地しているので、行政だけでなく、産官学民によるスポーツ推進を重視しています。

6点目は「国、東京都、隣接区協定自治体との連携を深めます」です。区内には国立や都立のスポーツ資源がありますが、区民目線では、区の所有か、都の所有か、国の所有かはあまり意味を持たないと思われれます。区民目線で、スポーツ資源を有効活用できるように関係機関との連携を重視していく方向性です。こういった視点に基づいて、皆様からのご提案も各施策に振り分けつつ、資料をまとめさせていただきました。

「するスポーツ」として「生涯にわたる多様なスポーツの総合的推進」を位置づけています。その中で、「誰もが生涯を通じてスポーツに参画できる機会の創出」に関する「現状と課題」、「施策」、「具体的事業」をまとめています。さらに策定委員提案として皆様からのご意見を整理して加えました。以降もそれぞれの場所に皆様の意見を入れていきますのでご確認ください。

また、この計画の実現に向けては全庁的な組織体制、PDCAサイクルをしっかりと回

していく実行組織を設置することについて、この委員会で提案したいと考えています。

1 点目として「渋谷S SDGs (Sports Sustainable Development Goals) コミッションの設置」を掲げています。地域のスポーツと地域の活性化を進めていくため各地に多くのコミッションが生まれていますが、本計画の実現においても民間事業者、統括スポーツ組織、大学、大使館、国、東京都の関係者が集まり、持続可能なスポーツ環境整備のためのコミッションというように縦割りを越えた横断的でフラットな組織が必要であろうということです。

2 点目の「スポーツアコード渋谷の開催」は、区内の各競技団体、地域スポーツクラブ、大学、学校、スポーツ推進委員、など計画に携わるスポーツ関係者が一堂に会してカンファレンスを開催するものです。年2回以上、民間のスポンサーを募り、区内で開催し、関係者全員が計画の進捗状況や課題について共通の認識を図ることが計画の実現に向けて大切であると考えています。

3 点目は「庁内組織の横断による持続可能なスポーツ推進体制」です。本計画を推進するため、区役所内にスポーツの持続可能性を推進する組織を機能させるというものです。そこで縦割りを越えて連携し、本計画を推進するとともに、上記の渋谷S SDGs コミッションやスポーツアコード渋谷の事務局も兼ねるといことです。

4 点目は、「SNSやICTを駆使した区民への広報と自主的な計画への参加促進」です。今も区が広報活動をしてはいますが、若い人たちを含めてより多くの区民に知ってもらう場合、区内にある最先端のSNS企業やICT企業の協力を得ながら渋谷スポーツアプリを作成して、それを活用して情報提供を行ったり、あるいは、健康行動の記録によって、区民の健康行動の改善に繋げていくということを提案したいと考えています。

説明は以上です。この素案につきまして、なんでも結構ですのでお一人ずつご意見を頂きたいと思います。

委員 行政施策の説明の本という感じです。策定委員会で話し合ったり、提案したことが全般にわたって入っており、文句のつけようがないかわりに、しっかりとできるのかどうかという印象もあります。先ほど、副委員長がおっしゃったようにどう実行するのが一番大事になると思います。実行のしかた、実行の組織をどうするのか、新たに变えたことを象徴的に進めていくのか、あるいは全般的に進めていくのか、一番力を入れてやっていくことは何か、それらをどう実行していくのかという疑問が残ります。

委員 前回、各委員が話された意見が網羅されており「これはおかしい」というものはないと思います。5W2Hがしっかりすれば、渋谷区民に対して渋谷区はこうやっていくということが伝わりやすいと思います。施策が明記されているだけでは、本当にやってくれるのかどうか、よいことばかり言っているだけではないかと思われかねません。时期的なこともしっかり明記していくことが大事だと思います。

委員 細かい内容までは深く言えませんが、伝え方が結構難しいと思いました。沢山の内容を含んでいますが、今回、ダイジェスト版をつくれますか。ダイジェスト版と本体との連携が取れることがまず大事です。

また、文字数も多くなっています。文字だけではハードルも高くなります。グラフィ

ックを少し工夫すると読む人のハードルも下がるのではないかというのが私の意見です。

委員

スクラップアンドビルドの作業では、どのくらいの人数が参加しているのかといった背景がよくわからなかったため、テーマを見てどれも継続していったほうがよいと思いながら、事業の方向性を考えさせて頂きました。また、素案については「する」「見る」「支える」「つながる」という4つのテーマで非常にわかりやすく委員の意見を反映して頂いていました。皆様がおっしゃったようにどのように実現していくのかが一番の課題だと思います。先日、スポーツ庁長官がスニーカー通勤を提案されていましたが、「思わず身体を動かしたくなる街へ。」に関しては、一人でも多くの方が気軽にできるところから入っていくのが一番簡単だと思います。

委員

まず、スクラップアンドビルドをまとめる作業は大変でした。このスポーツ推進計画は平成30年からの5年間の計画で、真ん中にオリンピックがあります。4つの大きな柱を見ると、委員の意見も入っておりまして、網羅してくださったので、文句の言いようはないと思います。

ただし、少しぼやけた印象があります。全てが並列という感じです。この5年間にオリンピックがある中で何を一番優先してやりたいのか、その強弱があって然るべきだと思います。5年間の真ん中がオリンピックですので、それに向けた前半、その後の後半に、それぞれどのように優先順位をつけて行っていくのかが見えたほうがよいと思います。5年間でこれだけ到達するという目標があったほうがわかりやすいと思います。

委員

私は障害者団体として参加させて頂いています。「誰もが身体を動かしたくなる街」のとおりになればよいのですが、身体障害については体を動かすのが難しいです。また、高齢化しているため、何とか動こうという気持ちはあっても現実的には困難です。知的、精神は年齢的には若干若いと思いますので、計画案の通り参加できればよいのですが非常に厳しいと感じます。

委員

全体的にうまくまとまっていると感じました。スマート・スポーツ・シティは非常に渋谷区らしいと感じます。IT企業も数多くありますし、渋谷区の小中学校では生徒全員にタブレットPCを配布している状況もあります。このようなものにつながっていくと、子ども達の運動の底上げにつながっていきそうだと感じます。一方、具体的事業や施策はこれまでやってきたことの継続と策定委員会の提案が並列された表記になっていますので、この5年間でどこを優先するか、オリンピックまでに何をするか等をもう一ひねりしていく必要があると素直に感じています。

委員

渋谷区だからこそできるものであればよい、渋谷区がやるからこそ意義があるとよいと思いながら拝読しました。

様々なイベントがある中で強弱をつけていく必要があると思います。時期的な強弱も必要ですし、スニーカー通勤のように、日常的に習慣化を目指すようなイベント的なものや、その後のインセンティブつまり起爆剤というような強弱をつけていくと、読みやすいと思いました。

委員

健康推進部が所管する分野では、中年期・壮年期のメタボリックシンドローム対策が課題です。スポーツゲームを開催するよりも、日常生活の中で時間に余裕のない方がで

きるだけ体を動かせる体制を整えていきたいと思えます。先ほどからプライオリティがどこにあるのかわからないというお話がありますが、私の立場としては今申し上げたことにプライオリティをつけて頂きたいと思えます。「公共空間を活用した運動機能の向上の推進」に関して、15km²のまち全体を運動場にしていく中で、仕事をしながら、歩きながら運動に移っていけるような体制整備が欲しいと思っています。

また「子どもから高齢者まで全世代が利用できるスポーツ施設の充実」については、なかなか時間がとれない人でも気軽に地域でスポーツができるということが実現していくと、健康推進対策に資する計画にもなると考えています。

委員 この計画期間で優先的に実現したいもの、もう少し長期の視点が必要なものなどの順位付けはないものの、そういった視点を加えて記載すると、計画内容がわかりやすく、具体性を持つものになると感じました。この辺りは事務局の作業になると思えます。

副委員長 どれも捨てるがたく、網羅的になっているのですが、実行が大事ですので、優先順位や時期の明記等のご意見も踏まえて検討させて頂きたいと思えます。

委員長とも話をしていたのですが、渋谷らしくポップにしたいと思えます。渋谷区長期基本計画のようなイメージです。思わず身体を動かしたくなる写真やイラストを入れていく方向で検討したいと思っています。

次に、スクラップアンドビルドに関しては事務局からご説明ください。

事務局 スクラップアンドビルドについて皆様にご記入いただいた意見をまとめています。

今行っている事業を廃止するのは難しいところです。同じ事業に対しても廃止とお考えの方、継続とお考えの方、拡充とお考えの方がおります。この事業を止めて、この事業を続けるという整理は難しいと考えております。一方、同じような事業、例えば高齢者向けの事業を1つにまとめていくとより大きな事業に発展するのではないかという方向のスクラップアンドビルドの考え方もあると思えます。統廃合のようなイメージではなくて、統合できるものを統合していき、その過程でより新しい大きな力にしていくことで、事業がもっと面白いものになるのではないかと考えます。この意味では、行政サイドでも少しスクラップアンドビルドを考えていかななくてはならないと感じています。

副委員長 私も一つ一つの事業について調べましたが、現場視察をしなければわからないこともあり、ここで廃止というわけにはいかないと考えます。一方、前からやっているからそのままやっていくというのもよくありません。継続に意味があることなのか、事業の捉え方を変えたらよりよいものになるのではないかと考えます。この点に関しましては行政でしっかり見直して頂き、計画に入れて頂きたいと思えます。

また、優先順位をつけて、時期も明確にしてどう実行するのか、さらには体制にも関わってくるのですが、実効性のある提案を策定委員会を出していきたいと考えています。更なるご提案や疑問点等はございますか。

委員 この事業のままだと、プレス発表をしても、マスコミの見出しにはならない、あるいは、「どうぞ渋谷区で推進してください」という記事にならない、もしくは取り上げる場所もないと思えます。この素案から抜粋すれば市町村のスポーツ・体育づくりがで

きるのではないかと思います。網羅されていると思いますが、これを発表してもインパクトがないと感じます。記者を集めてこの素案を配っても「よくやってるね」程度の反応です。渋谷区だから、あるいはオリンピックが近いからという視点で見ても、どこを記事に書いてよいのかわからないというのが正直な感想です。行政計画としてきれいにまとめてあり、言葉も現代的で、トレンドも提案も入っているが、それ以上ではないというのが今回の正直な感想です。

副委員長 取り上げられるようなものをつくっていきたいと思います。

委員 今のご意見には共感するところがあります。この素案は、優等生的に上の施策から下の施策へと降りてくるという感じで、ヒエラルキーがないため一発で頭に入ってきません。デザインでのキラーショット、すなわち、1枚の絵であつと言わせるものあるいはキラーコンテンツがあるとよいと思います。ヒエラルキーが標準化してしまっているので、少し尖ったものがあると、わかりやすくなると思います。

副委員長 区民にとっても「ワっ」と言うような魅力的なものになるように工夫をしてほしいと思います。また、専門家の意見もお伺いして、マスコミに取り上げられるようなものを一緒に考えていきたいと思います。

素案に関しては一旦預り、事務局にまとめて頂いた上で、委員長、副委員長とで一緒にまとめていきたいと思います。次にパブリックコメントについて、事務局から説明をお願いします。

(2) パブリックコメントの実施について

事務局 渋谷区では毎月1日と15日に渋谷区ニュースという広報紙を出しており、11月15日の渋谷区ニュースでパブリックコメントを行う旨の周知を図ります。素案の閲覧場所は、区のホームページ、仮庁舎の資料コーナーなどとなっています。11月30日まではがき等でご意見を頂くという方法でパブリックコメントを行います。

副委員長 WEBで意見を言えますか。

事務局 メールでも意見は言えるようになっています。

委員 パブコメで使う素案は今日の資料のように策定委員の意見が盛り込まれたものという理解でよろしいですか。

副委員長 今日の意見を踏まえて修正して出すということです。

事務局 今日頂いたご意見を委員長、副委員長、事務局で作成して出します。

副委員長 次回の1月15日にパブリックコメントで頂いた意見をまとめて頂いたものに対して皆様から再度ご意見を頂いて、反映させるという手続きでよろしいですか。

副委員長 次に、次世代の中学生の意見を聞こうという趣旨で委員長から提案があり、委員がご協力いただけるということで、中学生フォーラムを11月29日に開催することになりました。これに関しても事務局から説明をお願いします。

(3) 中学生フォーラムの実施について

事務局 11月29日に中学校の生徒に参加していただき、また、委員長の大学の学生にも協力

して頂き、フォーラムを実施することとなりました。フォーラムはそれぞれの将来や、オリンピック・パラリンピックとそのレガシーについて意見交換をする場とします。中学生にとっては何か気づきがあればよいという主旨もあります。

パブリックコメントが11月15日から11月末までであることから、出た中学生の意見も計画に反映していきたいと考えています。このため時期をパブコメに合わせて設定しました。

副委員長 中学生の提案も非常に実現性があり、また、よい提案が沢山あったのでこの機会をとっても楽しみにしています。これからの時代を担う中学生ならではの意見、渋谷区ならではの意見を聞きたいということから、パブリックコメントに加えて機会を設けて頂きました。

「する」「見る」「支える」は委員長が20年前に提言して、そのまま使われ続けているということです。これを渋谷らしく、よりポップな表現にしたいというお話もあったので、それについても中学生の意見を聞きたいと思います。策定委員よりも中学生のほうが新しい提案を出してくれるのではないかと期待しています。

副委員長 障害者スポーツに関して、意見はありますか。

委員 障害者スポーツはひとくくりにしても、障害は多様です。寝たきりの方、スポーツ計画にそったかたちで参加できない方が多くいます。

日本全体では肢体不自由の方で週3日以上スポーツを行う人は3%しかいないのが実態です。障害者の方がスポーツをする習慣が全然ないに等しい状況です。このような中、福祉先進国では健常者と障害者が一緒に行くことが多くあります。障害を持っているからスポーツができないと決めつけてしまうと、一生しないことになってしまうので、今回のオリンピック・パラリンピックは本当に大きな契機だと思います。パラリンピックのレガシーについて考えると、障害を持った方が少なくとも週1日以上スポーツをするようになってほしい。しかもそれが健常者と分け隔てなくできればよいと思います。その時に、障害者だけだと結局隔離された状況になってしまうので、一般の方と一緒にやっていける施策が多くあればよいと思っています。

障害者だけでやるからこそ参加しやすいというケースもありますが、将来的には一般の方と一緒にやっていく方向がよいと思います。さらには障害者スポーツの振興という言葉自体が無くなってもよいと思います。このような項目がある時点で既に区別してしまっているのに、障害者スポーツの振興自体を無くしてしまっ、「誰もが生涯を通じて参加できる機会の創出」の中に組み込んでもよいと思います。

副委員長 障害者スポーツの振興が無くなり、年齢も身体の状態も個性の一つとなるのが理想です。「ちがいをちからに変える街。渋谷区」としてスポーツでダイバーシティを体現していくために渋谷区が先陣を切ってもらいたいと思います。

委員 「する」「見る」「支える」については主語を明確に入れた方が今の時代に合っている気がします。「支えるスポーツ」というよりは「みんなで支えるスポーツ」というように、主語をもう少し前面に出したほうがよいと思います。また、「誰もが」を強調すれば渋谷らしさが出ると思います。動詞よりは主語を考えたほうがよいと思います。

副委員長 それで渋谷らしさが前面に出てくるかもしれません。「誰もが」「みんなが」ということで、例えば映像に多様な方々、障害のある人、ない人が出てくると「みんな」のイメージがわかりやすく出るかもしれません。

委員 例えば「一人でするスポーツ」「みんなでするスポーツ」というように広がりが増してくる気がします。より渋谷らしい感じになると思います。

副委員長 先日、渋谷区神宮前2丁目の商店街で「ピープルデザインストリート」というお祭りがありました。裏原宿と呼ばれるストリートを使って、ブラインドサッカー、50m全力走、車いす体験等を行っていました。また、フラダンスを小さな子からシニアの方まで踊ったり、道路に落書きをしたり、焼き鳥を食べたりというように、お祭りとスポーツが融合して多世代で誰もが楽しめるお祭りとなっていました。商店街とNPOが中心になって進めているようですが、その点も渋谷らしいと思いました。

パブリックコメントについてはバージョンアップした素案をパブリックコメント用として策定委員にご案内頂くということでよろしいですか。

事務局 今回、ご意見を反映したものを皆様に送って実施していきたいと思います。

副委員長 次回は1月15日、その次は2月ということで宜しくお願いします。

事務局 今回の開催場所は今回と同じです。時間は6時半からです。次回はパブリックコメントで頂いた内容をまとめてお示ししてご意見を頂きます。また、その次の回で答申案を出すという流れになります。

副委員長 本日はありがとうございました。